

日 時：2009年10月18日（日）
場 所：宝塚大劇場
出席者：松本新太郎ガバナーエレクト
村橋委員長・磯田副委員長・
西谷・田中・吉田・米田委員

米山奨学委員会
委員長

村橋 義晃
(大阪中之島RC)

2009年度「米山奨学生レクリエーション」が秋晴れの日に恒例の宝塚大劇場にて開催されました。この事業の目的は、米山奨学生に日本の文化を肌で感じてもらい、また奨学生同士の交流を深めるとともにロータリアンそしてその家族とのよりいっそうのコミュニケーションを深めていただくことです。

今年の宝塚歌劇の演目は月組の第1部ミュージカルロマン「ラストプレイ」。孤児院で育った主人公の青年は、ストレスと重圧から演奏中に失神してしまう。このことがトラウマとなり、彼はピアノに近づくことさえ出来なくなる。孤児院を出た青年は偶然出会った1人の男の元に身を寄せる。ある日、何者かに狙撃され青年は記憶を失うが、ピアノに向かい見事な演奏を始める……。主人公が自らの意思で。第2部はファンタスティック・ショー「Heat on Beat!」。非常に煌びやかでTHE宝塚歌劇そのものでした。

華やかな公演も2時過ぎに終演となり、宝塚劇場別室にて懇親会が開催されました。まず初めに松本新太郎ガバナーエレクトが米山奨学生のカウンセラー皆様に感謝とねぎらいの言葉を述べられ、奨学生には励ましと未来への期待の言葉を贈られました。続きまして第2660地区米山奨学委員長より伝統のある宝塚歌劇の紹介を含めて挨拶されました。

その後、奨学生とカウンセラーの皆様より自己紹介を兼ねたスピーチをしていただきました。宝塚歌劇の感想は「男性が女装の劇は他国でもあるが女性が男装するのは初めてみた」「華やかさに感動した」「今でも胸がドキドキする」等々、皆日本の文化に触れ非常に感動していただきました。また例会や日常生活については「いろいろなロータリアンのお家に訪問した」「京都に連れて行ってもらった」等、お世話クラブのロータリアンとコミュニケーションがとられているのがよくわかりました。話の中から奨学生達はクラブのカウンセラー・ロータリアンを日本のお父さん、お母さんと思慕しているのが伺えました。そして関西米山奨学生学友会朴日会長より学友会の案内があり、奨学生終了後も交流を繋げていくよう力強いメッセージがありました。

最後に、この米山奨学生達が数十年後に国際社会で活躍し、自国と日本との橋渡しをしてくれることを祈念して報告にさせていただきます。

